

# 令和４年度「SDGs未来都市」等の選定について

## 1. SDGs未来都市の選定

本市は、SDGsの理念に沿った基本的・統合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い地域として、内閣総理大臣からSDGs未来都市に選定されました。

SDGs未来都市は、国やさまざまなステークホルダーと連携し、提案内容を更に具体化するため、3年間の計画を策定し、事業を展開するものです。本市の3年間の取り組みの成功事例は国内外へと発信され、幅広い世代に対してSDGs達成へ向けた取り組みの認知や普及啓発を通じ、持続可能なまちづくりへと発展し、地方創生の実現に寄与します。

SDGs未来都市は、2018年から毎年約30都市が選ばれ、その中でも、特に先導的な取り組みを行なっている10都市が、自治体SDGsモデル事業に選定されます。

(提案タイトル)

「宝の都（くに）・大崎」の実現に向けた持続可能な田園都市の創生

(県内の状況)

2018年 東松島市（SDGs未来都市）

2020年 仙台市（SDGs未来都市）

石巻市（SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業採択）

2022年 大崎市（SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業採択）

## 2. 取組内容の概要

世界農業遺産（GIAHS）とSDGs目標を連動させ、喫緊の諸課題に対し、多様な主体の参画により、カーボンニュートラルな食料生産、生物多様性の向上、グリーンインフラによるレジリエンス、GIAHSツーリズムなどに関し、「人」、「知恵」、「資源」のつながりの再構築により、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して、持続可能な地域づくりを実現するものです。

### (1) 経済面の取組

グリーン化栽培の推進・地域農作物等のブランド化・農泊を軸としたGIAHSツーリズムの実施・青年就農者など次世代の担い手の育成強化

### (2) 社会面の取組

大崎市流地域自治組織による課題解決手法の探求・GIAHS学習プログラムの推進・企業CSR、CSVとの協働による資源保全活用プログラムの実施・応援組織を通じた関係人口の創出

(3) 環境面の取組

有害鳥獣対策による農村環境の保全管理・有機農業・グリーン化の拡大・  
田んぼの生きものモニタリングシステムの構築・グリーンインフラを活用した  
防災・減災機能の発揮・大崎耕土の居久根景観の保全と活用

3. 自治体SDGsモデル事業（補助事業）の内容

事業名：大崎耕土GIAHSを核とした持続可能な地域社会づくり

(1) 大崎GIAHS・SDGsプラットフォーム形成事業

- ・プラットフォーム会議の開催
  - ・普及啓発イベントの開催
  - ・職員研修、視察調査等の実施
  - ・リーフレット・パンフレット作製
  - ・映像コンテンツ制作
- ～全体マネジメント・普及啓発等経費（上限 15,000 千円）

(2) 大崎ネイチャー・ポジティブ定量化事業

- ・定量化調査計画策定業務委託
  - ・周辺環境調査業務委託（水田、水路等周辺環境）
- ～事業実施経費（上限 20,000 千円）

※ 自治体SDGsモデル事業は、SDGs未来都市の中で実施予定の事業が先導的な取組として選定されたものです。本市では、経済・社会・環境の3つの側面の統合的な取組により、各自治体の環境・文化・課題等へ対応するものであり、多様なステークホルダーと連携し、地域の自律的好循環が見込める事業を展開します。



**祝 SDGs 未来都市 選定**  
「宝の都(くに)・大崎」の実現に向けた持続可能な田園都市の創生

